

学ぶ12日間

名古屋市立山田高等学校 3年 松久 舞斗

1.研修の目標

私は大学での留学を考えています。今回の海外派遣に参加することで、海外でのホームステイ、文化、学校など日本では学べないことを吸収し次の留学に活用したいと考えていました。

2.事前の準備

英検、受験勉強のさなかで自分が現地に行った際に使えるような単語を会話が途切れることなくすぐに出てくるように覚えました。

自分は音楽が好きなので現地で流行っている様々な音楽を聞き、会話のネタとして使えるようにしました。実際にブルーマウンテングラマースクールで自分の聞いていた曲を聴いている生徒がいて、会話を弾ませることができました。

日本の文化を紹介する機会があり、自分は日本のアニメを紹介することになりました。そこで、現地の生徒はアニメのどんなところに興味があるのかどのような話に関心を持つのかなどを考え、わかりやすい紹介ができるよう、準備して臨みました。

3.シドニーでの体験

<視察>

様々な場所へ視察に行きましたが、ここでは2点とりあげ感想を述べたいと思います。1つは最も綺麗なところだと感じた、ボンダイビーチというシドニー大都市圏にある海です。まさにエメラルドブルーの綺麗な海で、波は少し激しくサーフィン初心者の方などもよく訪れると聞きました。もう1つはタロンガ動物園です。そこではコアラを間近で見ることができたり、綺麗な鳥たちのショーが行われていたりなど、オーストラリアならではの、日本ではなかなかできない体験をすることができました。

<学習>

現地では2つの学校へ行きました。1つはショア高校という男子校で、バディと同じ授業を受けました。日本の大学のようにほとんどが選択授業で、生徒一人ひとりに週のスケジュール表のようなものがありました。生徒はそれぞれのそれに従い、授業へ

向かう仕組みでした。実際に授業を受け何より驚いたことは、授業中の雰囲気が日本のように静かにただ先生の話を聞いて板書するのとは違い、笑いが絶えないながらも授業をしっかりと受けていて、先生が生徒へ質問をするより先に生徒が挙手しているほど授業へ積極的に参加していることでした。

四日間にわたるホームステイでは、ホストファミリーの方々優しく歓迎してくださりました。一日目では緊張してしまいうまく言葉を伝えることができなかつたのですが、日をまたぐたびにうまく伝えることに慣れていきホストファミリーの方々のお話もたくさん聞くことができました。そのほかにもバディとオーストラリア特有のハンドボールというゲームをしたり、卓球をしたりととても充実したホームステイを送ることができました。

4.研修の成果と今後の課題

<成果>

何より日本と外国の学校や文化の違い、英語のみの本格的なコミュニケーションを12日間にもわたり体験したことで自分の視野が広がったと思います。そして、うまくコミュニケーションをとる方法も身に付けることができました。この体験を次の留学につなげていきたいと考えています。

<課題>

自分の中で痛いほど感じたのは、現地の方と話している途中で思ったことがあっても英語に直すことができず伝える前に話が終わってしまうことが何度かあったことです。これを改善するために日ごろから英語を使う練習やわからない単語を調べることを徹底しようと思いました。

